

実技教科にみる共同的学びの在り方

美術教育講座・佐藤史子

1. 授業の概要

本授業は、小学校教員免許取得のための選択科目である。教員免許法の改訂で教科に関わる科目の取得単位数が減少し、これによる指導力の低下は否めない。本授業では、図画工作科に関わる基本的な実技力の育成に努めること、図画工作科の目的と表現の楽しさを理解すること、受講生の美的価値基準を育てるのが目的である。これは、受講生達が図画工作科と芸術を同一視していることやそこから生じる苦手意識の改善に基づいている。本授業では子どもの立場で教材を理解・体験しながら指導方法も意識させることを念頭におき、初等教科と初等教育法の授業を関連（すなわち教材研究・教材体験と指導法をリンク）させるカリキュラムを検討している。

今回は特に受講生達が互いの作品を見たり、助言したりすることで他者の作品を理解したり評価することに共同的な学びの成果が得られると期待した。またこれを通して、受講者自身の美的価値基準が育成されると考えた。

授業の概要は、絵画・造形遊び・工作・彫塑・鑑賞の制作実習である。受講生相互の作品鑑賞を行い、批評力の育成を試みた。また机の配置もコミュニケーションが図れるように工夫し互いの活動を確認し合うことで共同的な学びが図れるようにした。

2. 授業評価の方法

授業評価はアンケート調査による。評価は5段階評価、5：とてもそう思う、4：ややそう思う、3：どちらとも言えない、2：あまりそう思わない、1：全くそう思わない、である。

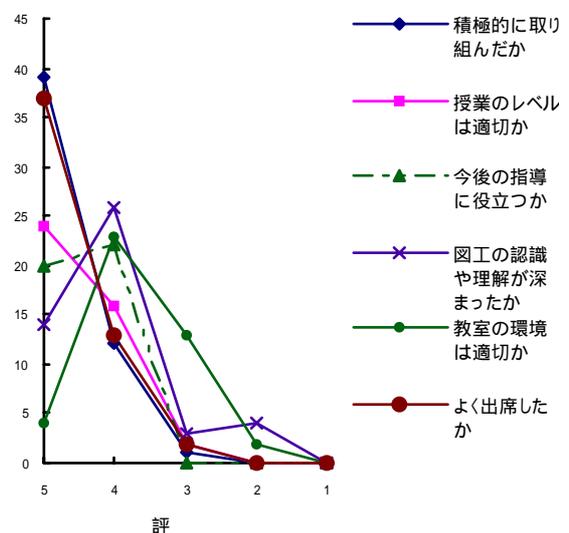
3. 授業評価の結果

評価項目ごとの集計は図の通りである。評価項目ごとの具体的な記述は次の通り。「指導時の参考になりましたか」：楽しむ、遊ぶことの良さを実感できた。作りながらどう指導すればよいか分かった。的確な指導が受けられた。教える際のポイントや注意点を教わった。図画工作科に対する教科知識が高まった。子どもの作品を尊重す

ることを学んだ。子どもはどんなところに苦労するのか分かった。子どもの作品を選ぶ観点を理解できた。作品を評価する視点が養われた。教える側の知見を得た。子どもが伝える表現の大切さを学んだ。「新たな発見や印象に残った単元は何ですか」：素描(16)、版画(23)、鑑賞(16)、紙工作(12)、彫塑(20)。教室の環境：狭くて机や椅子の移動がしにくい。私語が多すぎる。グループになって行うことで他人の作品が見られた。仲間とアドバイスしながらできた。広い机が欲しい。

「今までの認識と変わったことは何ですか」：評価の視点、図画工作の奥深さ。図工は上手に創作することではなく、問題解決力を身につけることである。強制しない図工の在り方。鑑賞に対する考え方が180度変わった。苦手な子にも教えられる気がする。大切なことは楽しく表現するということを学んだ。表現が多様になった。素描のポイントを知ることができた。

集計の結果、本時の授業目的は概ね達成した。机の配置を変えて、コミュニケーションを図れるようにし、学生自身の美的な批評力をつけることでかなり共同的な学習の場が保障できたと考えている。但し、この学習形態によって、場は和むが私語が多くなることは否めない。



科目区分：小学校教科科目，授業科目名：初等図画工作

担当教員：佐藤史子・杉林英彦

初等図画工作における授業評価報告

美術教育講座・杉林英彦

小学校教科科目・初等図画工作は、Aグループ（教育学・教育心理学・幼児教育・国語・保健体育・障害児教育専修の受講生）を佐藤史子教授が担当し、Bグループ（社会・家政・数学・理科・美術・技術・音楽・英語専修の受講生）を筆者が担当した。本報告書に関しては、筆者担当授業を対象とする。

1. 授業の目的と到達目標

【授業の目的】

小学校図画工作科の「表現」「鑑賞」領域に関わる教材を制作し、学習指導に必要な基礎的な知識と造形力を育成し、用具・道具の使い方を習得する。

【到達目標】

1) 造形に関わる基礎的な表現力や知識を身に付ける。2) 作品を鑑賞する方法を習得し、分かりやすく解説できる。

2. 授業を行う上での工夫

本授業の受講者は、次年度前期にある初等図画工作科教育法を受講することが予想される。本授業では、実際に制作活動を通して、造形表現を行う上で必要な基礎的な知識や技能を確実に身につける。それを踏まえ初等図画工作科教育法で受講者が、学指導要領や教育内容・教育方法等の学習・理解へと展開することを期待している。

特に筆者が留意した点は、身体感覚を働かせた造形活動、身近な素材を用いた造形活動、空間に働きかける造形活動を積極的に取り入れたことである。初等図画工作科を指導する場合、必要なことは基礎的な知識・技能だけではなく、子ども達の身体的な表現を理解することも重要であると考えている。受講者が自らの手と目と脳を刺激し、身体的な造形活動をする体験を通して、

発見する様々な感覚や空間を認識するような教材を提供した。

また、造形活動に必要な用具・道具などは、いつでも受講者が使用できるように、毎回の授業時に準備した。それは、受講者が適切に用具・道具を使用しているのかを確認・指導することと、授業時以外に使用頻度の低いものが多いため、造形活動に必要な用具・道具に親しませることをねらいとした。

3. 授業評価アンケート結果

受講者に授業評価に関するアンケート調査を行った。回答者数は28名である。

(1) あなたのこの授業への出席状況はどのくらいですか？

全部出席：16名、1回欠席：6名、2回欠席：5名、3回以上欠席：1名という結果であった。各種実習などによりやむを得ない欠席を除けば、受講者の出席率はよかった。センター入試準備の振替授業の連絡が行き届かなかつた反省点がある。

(2) この授業に積極的に取り組みましたか？

そう思う：22名、ややそう思う：6名、あまりそう思わない：0名、そう思わない：0名という結果であった。結果のように受講者は、授業に積極的に取り組んでいた。筆者の問いかけにも、敏感に反応していた。ごく一部ではなく、教室としてダイナミックな授業を展開することができたと思っている。

(3) 各回の授業のテーマ・目的は、授業展開の中で明確でしたか？

明確だった：8名、やや明確だった：19名、あまり明確ではなかった：1名、明確ではなかった：0名という結果だった。明確だったという回答数が低い結果となった。

各回の授業はじめには、単元名と簡単な授業展開だけを板書するようにしていた。それは、受講者が造形活動中に主体的に疑問に感じることや発見することを重視したことからである。授業途中や授業後に単元のポイントや指導方法を口頭で指導した。教育学部2回生の受講者が考えなければいけないことや、失敗を経験しなければいけない活動に関しては、詳細な説明をしないこともあった。そのことがアンケート結果に反映していると考えられる。しかし、単元のまとめを各回の授業終了時に受講者へ文字として伝えることや、彼らと議論をする時間を設けるべきであったかもしれない。

(4) 担当教員の話し方や説明の仕方はわかりやすかったか？

わかりやすかった：20名、ややわかりやすかった：8名、ややわかりにくかった：0名、わかりにくかった：0名という結果であった。口頭での説明や指導は、作業工程に関することや、その時々での子どもへの支援方法を筆者の経験や子どもたちの発達段階を踏まえて説明した。板書や参考プリントの配布は少なかったが、よく筆者の話を聞いている様子であった。受講者が造形活動中に筆者が行う、受講者の発話の抽出の仕方などは、特に関心をもって聞いていたように思う。

(5) 担当教員の授業に対する熱意は感じられましたか？

感じられた：24名、やや感じられた：4名、あまり感じられなかった：0名、感じられなかった：0名という結果であった。筆者が授業で行おうとしていることを積極的に受け取ろうとしている結果と判断できる。よい授業環境を受講者とともに作ることができたと考えている。

(6) この授業により、初等図画工作の学習指導に必要な基礎的な知識と造形力を身につけることができましたか？

身についた：7名、やや身についた：21名、あまり身につかなかった：0名、身につかなかった：0名という結果であった。造形に関する技術力を問わない単元をあえて構成した。そのために、造形に関する知識や道具の使用方法に関する習得はできたと考えられるが、「造形力」に関して受講者は明確に判断できなかったかもしれない。

筆者は、各単元でもっと具体的に身に付けるべき能力を明確に提示すべきだったと反省している。

(7) この授業では「制作」を主に行いました。造形表現に興味を持つことができましたか？

興味をもった：25名、やや興味をもった：3名、あまり興味をもたなかった：0名、興味をもたなかった：0名という結果であった。シラバスの到達目標の基本となる造形表現への興味を本授業でもってほしいという願いからの項目である。結果としては、受講者はほぼ全員が興味をもったという結果だった。もともと興味をもっていた受講者だったかもしれないが、受講態度や積極性を見てみると興味をもって造形表現に挑んでいたと評価できる。

(8) この授業について、印象に残った点や改善すべき点などを上げてください。

(自由記述)

多くの意見があったが、改善点として上げられていたのが、授業時間を長くしてほしいということ、ガイダンス時での説明と内容が少し変更したことへの説明不足に関する点、活動を省察する時間を取ってほしいということであった。授業時間の延長は難しいが事前の準備、授業内容の焦点化をしていきたい。また単元ごとの省察の時間を取るようにしたい。

印象に残った点として多い意見は、大きな粘土や風船といった造形活動により、身体的な造形活動をはじめて体験したこと、子どもの感性の大切さや、造形表現の楽しさを知ることができたこと、実際に造形活動をしながら子どもへの支援方法の指導が具体的でわかりやすかったとあった。

4. まとめと課題

各単元での省察を行う時間を授業時に設ける必要性をアンケート結果から感じた。筆者は本授業を次年度前期の初等図画工作科教育法との差別化を意識し、制作に焦点をあて身体的な造形活動を行った。しかし、受講者は各単元で身に付ける技能や知識を明確に提示されることを望んでいる。今後の授業では、制作活動の焦点化を行い、各単元での省察や議論の時間を設けていきたいと考えている。